

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	福知山丹陽保育園	施設種別	保育園 (旧体系：)
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成29年1月16日

総 評

福知山丹陽保育園は、JR福知山駅から徒歩5分程の場所に位置し、戦後間もない昭和23年に教会に集う夫人達が中心となり、戦災孤児の救済を目的に開園された長い歴史のある保育園です。設立から現在に至るまで、キリスト教の精神を大切にして朝夕に祈りの時間を設け、子ども達一人ひとりの命と人権の尊重を基本として運営してこられました。

福知山市は合計特殊出生率が全国でも上位であり、三世帯同居の世帯も多いことから、「子育てしやすい地域」といわれています。

保育園の周囲は、JRの駅が近い住宅地でありながら、少し足を伸ばすと古い街並みや豊かな自然が残っている恵まれた環境です。また、裏手には小学校があり、就学前には入学予定の子ども一人ひとりについて、保育園と小学校の間で話し合いが行われ、家庭支援、子育てサポートが進んだ地域です。卒園生の小学1年生の参観日には、保育士が参観するという取り組みは、温かい地域性と保育の連続性を大切にする保育園の方針を表しています。また、保育園では毎年同窓会が継続して開催され、ある卒園生が結婚する時に、保育園のホールから巣立っていったという微笑ましいエピソードも伺いました。

保育過程は、保育方針「遊びを大切にする保育」「子どもの自由な思いを大切にする保育」「広い視野を持った保育」及び、基本方針や目標に基づき適切に作成されています。また、保護者会等で聞き取った保護者の意向が、保育課程の内容に活かされています。保護者会役員会は定例時に加えて行事前にも開催され、遠足・運動会・夏の合宿等・保護者参加の機会が多い事も特徴です。

また、保育園の成り立ちからも窺えるように、地域との繋がりが強く、夏祭り、秋祭りには地域の方々を招待して交流する機会を大切にされています。園の畑で花や野菜の栽培を手伝っていただくボランティアを募り、地域の方々と一緒に季節の無農薬野菜等を栽培して、収穫した野菜を給食として提供するなど、食育には積極的に取り組んでいます。また地域のニーズに応え、園庭開放や未入園児の保護者支援等、地域の子育て支援の保育園としても大きな役割を担っています。

管理者は職員が働き続けることができる職場環境の整備に力を注がれ、実際に勤務経験の長い保育士が多い事は豊かな保育実践に繋がり、丹陽保育園の大きな強みの一つです。

一方、文書管理規程等の規程整備や各種マニュアル類の見直しについては、課題もみられました。マニュアル類の整理、及び、活用の利便性を踏まえた継続的な工夫は、組織力のさらなる強化に繋がります。マニュアル類の定期的な見直しを行うことで、職員間の共通認識がさらに深まるとも考えられます。特に、安全・事故防止に関するマニュアル類に関しては、早急に整備すると同時に定期的に見直すことが望まれます。

今後も地域、同一法人である「みどり保育園」と連携して、自然豊かな地域で、「遊びを大切にした保育」を通して心身を健やかに育み、地域から信頼される児童福祉を実現する保育園として発展されることを期待しております。

<p>特に良かった点 (※)</p>	<p>I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている 毎月定例の職員会議は全職員の参加が基本とされ、保育の質の向上を目指した園内研修として、園長が選んだ参考資料や本の読み合わせが実施されています。また、役職者の会議で行われた現状についての評価、分析、改善策については、職員会議で説明して周知されています。</p> <p>管理者は、職員の士気を大切に、職員が働きやすい環境整備を積極的に行い、職員自らが生活を大切にしながら働き続けられる職場を目指してこられました。そのために職員の働きやすい人員配置を柔軟に行い、子どもの数に対して定員以上の保育士が関わりをもてるようにしています。例えば、乳児クラスに睡眠時間の安全確認を行う職員を配置し、事故防止に取り組むことで職員が安心して働ける労働環境を整備されていることは、顕著な取り組みといえます。実際に勤務経験の長い職員が多いことが特徴で、経験に裏付けされた豊かな保育実践が、子ども達の成長と同時に保護者の大きな安心に繋がっています。</p> <p>III-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている 平成28年にホームページを作成され、保育園の様子が季節ごとの写真を活用して分かりやすいカテゴリで紹介されています。入園希望者に対しては随時見学を受け付け、保育園概要「ほいくえんのせいかつ」、「園だより」や保護者会で作成したビデオを基に丁寧に説明されています。また、保育開始前には「ほいくえんのせいかつ」、重要事項説明書を用いて、保育内容や料金等について丁寧に説明し保護者の同意を得ています。</p> <p>IV-1-(1) 健康管理・食事 バケツで稲を育て、園内の畑で地域のボランティアの方々と季節の野菜を育てています。収穫した季節の無農薬野菜、さつまいもを焼き芋にして近隣の方に配り、トマトをスムージーやミートソースに調理して昼食やおやつに提供するなど、食育に積極的に取り組んでいます。また、保育室とは別の静かな部屋で食事をする日を設けるなど、食事の環境にも配慮しています。</p> <p>食材や飲料（茶・ジュース等）は、可能な限り無農薬有機栽培のものを選び、食器についても有害物質の溶出が少ない陶磁器を用いるなど、食の安全に取り組み保護者にも積極的に発信しています。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている 新任保育士に対して経験が20年以上ある先輩保育士が現場で業務について教えていく体制を整備されています。また、キャリアパス制度を策定し、経験（職位）に応じて望まれる能力や研修内容を明確にして、研修計画に基づいた研修が実施されています。この数年間で急速に人材育成体制を整備されましたが、職員一人ひとりについて個人目標が明確になった研修計画の作成については確認できませんでした。</p> <p>また、研修報告書を職員全員に回覧することで研修内容の伝達を行い、重要な内容については職員会議で発表されていましたが、その研修成果についての分析を次の研修計画やカリキュラムの見直しに活かしている取り組みは確認できませんでした。</p> <p>IV-3(1) 安全・事故防止 事故防止の取組として、ヒヤリ・ハット事例を記録して毎月の職員会議で検討しています。また、子ども達への安全教育として警察官による交通安全教室の機会等も設けられていますが、事故防止チェックリスト等の活用や、事故防止をテーマとした研修の実施が確認できませんでした。また、食中毒、災害発生、事故発生に対応するマニュアルは作成されていましたが、定期的な見直しが確認できませんでした。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	福知山丹陽保育園
施設種別	保育園
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	平成28年11月28日

保育所評価基準

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1 (2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
		I-2-1 (2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。		A	A
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。		A	A
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。		A	A
	⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。		A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 (1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	B
	I-3-1 (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A
[自由記述欄]				
I-1-1 (1)	①「遊びを大切に保育」という保育理念が、保育園概要「ほいくえんのせいかつ」、ホームページ等に明文化されている。 ②保育理念に基づいた保育方針、保育目標である年間主題が、「ほいくえんのせいかつ」、ホームページ等に明文化され、職員の保育事業活動における規範となる適切な内容となっている。			
I-1-1 (2)	①保育理念、保育方針、年間主題について、定例の職員会議で周知され、園長から実践テーマを設けて説明されている。 ②保育理念、保育方針等について、保護者会で説明し、毎月発行する「園だより」に年間主題・副題を記載し周知している。地域に向けては、夏祭り、秋祭り等に招待し、理念や方針に基づいた保育内容や行事について周知を促している。			
I-2-1 (1)	非該当			
I-2-1 (2)	①保育課程は、保育理念、保育方針等に基づいて編成されている。また、編成課程においては、保護者会役員会を通して保護者の意向を把握して尊重し、地域の現況や課題等も考慮している。 ②保育課程を基に、整合性のとれた年間指導計画、短期指導計画が作成されている。子ども一人ひとりの発達過程や状況を担任が把握して、主体的に活動できるように考慮した内容になっている。 ③指導計画の評価については、担任保育士が月間指導計画表の裏面に評価反省等を記入して、主任、園長が確認している。 ④保育過程の編成や指導計画の作成は、毎月の振り返り会議において、主任や園長を交えて協議のうえで行われ、子どもの実態に即した活動ができるように毎月の保育テーマを設定している。 ⑤保育課程・指導計画については、毎月の職員会議において確認している。保護者に対しては、毎月発行する「園だより」、「クラスだより」に、月間指導計画に基づいた保育テーマを明示して理解しやすい工夫をしている。			
I-3-1 (1)	①管理者は自らの役割と責任を組織図・職務分担表で明記し、担任保育士が安心できるように「日常の保育も行事も園長と一緒に関わる」という姿勢を日頃から職員に伝えている。また、自らの役割や責任について、ホームページや「園だより」においてメッセージとして表明している。 ②管理者は地域での連携会議や園長会議において、遵守すべき法令や改正について学び職員会議で職員に説明している。幅広い関連法令について情報収集しているが、その法令等がリスト化されたものは確認できなかった。			
I-3-1 (2)	①毎月定例の職員会議には、パート職員を含めた全員参加を基本として、園内研修として保育の参考になる資料や本の読み合わせを行うことで保育の質の向上を目指し、指導力を発揮して職員の士気を大切にしている。現状についての評価・分析は、役職者の会議で行い、改善策について職員会議で説明している。 ②管理者は職員の勤務状況を把握し、人員配置や職員の動きやすい環境整備を積極的に行い、働き続けられる職場を目指している。実際に、勤続年数の長い職員が多く、保育の質の向上や保護者の安心に繋がっている。			

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	B
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。		A	B	
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		A	B	
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
【自由記述欄】				
II-1-(1)	① 行政機関等との連携体制が強い地域であり、連携会議や地域活動への参加において社会福祉事業全体の動向や地域の状況を把握しているが、把握した情報を分析してデータ化するなど事業計画等への反映が確認できなかった。			
II-2-(1)	① 人員体制については、毎月勤務表で配置を確認し必要に応じて補充を行う柔軟な体制をとっている。また、丹陽福祉会として「キャリアパス制度」を作成し、経験に応じて望まれる能力等を明確にした人員計画を整備している。			
II-2-(2)	① 職員の個別面談を定期的に行い職員が相談できる機会を設け、希望者は保育園と連携している精神科や学校心理士である理事長に個別相談できることを周知している。職員の有給休暇取得状況を事務長や主任が常に把握し、取得数が少ない職員には個別に業務状況の聞き取りを行っている。 ② 職員の悩み等は、園長が相談窓口となって受け付けるように周知している。また、勤務経験20年以上の先輩保育士が後輩保育士を見守る体制「見守り隊」を整備している。福利厚生センターに加入し、人間ドッグ受診料の補助やインフルエンザ予防接種の全額補助を行っている。			
II-2-(3)	① キャリアパス制度を整備し、組織が職員に求める姿勢や専門性等について、職員の経験年数（職位）に応じて明記されている。 ② キャリアパス制度において、経験に応じた研修内容を明確にして研修計画に基づいた教育・研修が実施されている。また、職員の希望に沿った研修受講も可能にしているが、職員一人ひとりについて個人目標が明確になった研修計画は作成されていない。 ③ 研修報告書を職員全員に回覧することで研修内容の伝達を行い、重要な内容については職員会議で発表しているが、その研修成果についての分析を次の研修計画やカリキュラムの見直しに活かしている取り組みは確認できない。			
II-2-(4)	① 実習については事務長が実習受け入れ窓口となり、手引き等に基づき受け入れ方針を職員間で共有したうえで、保育士実習や地域の中高生の職場体験・実習を実施している。 ② 保育士実習の受け入れにあたっては、養成校と相談のうえ計画的に学べるよう、実習生個別にプログラムを作成している。			
II-3-(1)	① 園児がが地域住民と交流できる機会を大切にして、日頃の散歩や畑での野菜作りを通して、住民と挨拶や会話をする子ども達の楽しみになっている。また、夏祭りや秋祭り、運動会やバザー等の保育園行事に参加していただけるよう、地域に積極的に案内している。保護者に向けても、地域資源についての案内等を園内の「掲示コーナー」に設置して周知している。 ② 地域に向け定期的に園庭を開放している。また、土曜日に子育てサポート活動を実施して、未入園児の母親に向けた情報の発信や保育相談の受け付けを行っている。地域の中学校では、「しごと学習」の一環として保育についての講演等を実施している。 ③ 納涼会では地域の振興会が盆踊りの指導をする、バザーでは近隣の高校生がボランティアをするなど、地域からのボランティアを受け入れているが、ボランティア活動について意義や方針等が明文化されたマニュアル等は作成していない。			
II-3-(2)	① 関係機関や団体等、必要な社会資源に関しては、掲示板等を活用して職員がすぐに確認できる状態にしている。			

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	B	B
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	B
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A
[自由記述欄]				
Ⅲ-1-(1)	① 保育方針や保育課程においても人権尊重について記載され、プライバシー保護に関するマニュアルを整備し、職員会議や園内研修で園長が具体的な事例検討をするなど周知を促している。保護者に対しては個人情報保護と併せて重要事項説明書に記載して説明し、ホームページや園だより等の写真掲載時には同意を得ている。			
Ⅲ-1-(2)	① 苦情解決の体制を整備し、第三者委員を重要事項説明書等に明記して説明している。苦情については速やかに職員会議で協議(ワークショップ)を開催し保護者に返答しているが、その結果等については他の保護者や一般に公表はされていない。 ② 意見や提案を受けた際にはその都度迅速に対応しているが、記録や報告の手順が明確に規定されたマニュアルは作成していない。			
Ⅲ-2-(1)	① 平成24年に病院協会の評価を受診し、その評価結果に基づいて平成26年からキャリアパス制度、人事考課制度を整備して事業内容の改善に向け努力されてきた経過について聞き取った。職員会議を中心に職員参画のもと、改善計画を策定する仕組みを整備している。 ② 毎年、園長との個人面談を行うなど、職員個人の自己評価の仕組みは整備している。保育園全体として事業運営についての評価を行う基準や仕組みは整っていない。			
Ⅲ-2-(2)	① 入園開始時に保護者から園児の情報を聞き取ってアセスメントを実施し、職員間で情報共有や意見交換を行って児童票を作成している。また、年に一度は再アセスメントしている。 ② 記録の管理について職員会議で園長から留意すべき事項について周知している。「管理運営規程」のなかに「文書規程」が規定されているが、記録の開示・廃棄に関する記載は確認できなかった。 ③ クラスミーティングや全職員が参加する毎月の職員会議において、各クラスの情報共有や個別ケースの対応についての協議などを行っている。記録も全職員が確認して、共有できる仕組みを整備している。			
Ⅲ-3-(1)	① 平成28年にホームページを作成し、季節ごとの保育の様子等を写真を活用して分かりやすく紹介している。希望者に対しては随時見学を受け付け、保育園概要「ほいくえんのせいかつ」、「園だより」や保護者会で作成したビデオを基に、丁寧な説明に努めている。 ② 「ほいくえんのせいかつ」・重要事項説明書に、保育内容や料金等について詳細を明記し説明して同意を得ている。			
Ⅲ-3-(2)	① 保育記録には、子どもの育ちの連続性を大切にして成長の軌跡を分かりやすく記録している。転園や卒園時には、その記録のなかから必要事項を引継書にして情報提供している。保育園の裏手に小学校が隣接しており、地域の小学校との連携が強く、小学1年生の参観日には可能な限り保育士が観に行くようにしている。また、毎年卒園生の同窓会が継続して開催されている。			

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	B	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	B	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	B	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	B	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	B
【自由記述欄】				
IV-1-(1) ①	① 児童票に児童の健康状態に関する詳細情報を記載し、1年1回は最新の情報に更新している。子どものその日の体調に関する情報は事務日誌に記載し、全職員が出勤時に必ず確認する。急な体調変化（発熱時・嘔吐等）への対応については、マニュアルを作成している。食物アレルギー除去指導書や生活療養管理指導票を整備している。			
IV-1-(1) ②	② 年1回の健康診断と4歳児には就学前検診を実施し保護者に結果を通知している。健康診断の結果は職員室掲示板に掲示して、全職員が担当クラス以外の健康診断結果を確認するようにしている。			
IV-1-(1) ③	③ 年2回歯科検診を実施しており、検診結果は職員室掲示板で共有して、留意事項等を保育園での歯磨き指導に活かしている。			
IV-1-(1) ④	④ 「事故・病気マニュアル」を作成し各クラスに設置して、いつでも職員が確認できるようにしている。また、職員会議の際に参加職員で内容の確認を行っている。保健所主催の感染症研修に主任が参加し、職員会議で伝達研修を実施している。			
IV-1-(1) ⑤	⑤ 園内の畑で野菜づくりを手伝ってくださる方を地域で募集し、季節の野菜を地域ボランティアの方と一緒に育て、収穫した季節の無農薬野菜（さつまいも・トマト等）を調理して昼食やおやつに提供するなど、食育に積極的に取り組んでいる。また、保育室とは別の静かな部屋で食事をする日を設けるなど食事の環境にも配慮している。			
IV-1-(1) ⑥	⑥ 調理室がホールに面していて子ども達が調理の様子を見て感じる事ができ、料理への感心に繋がっている。栄養士や調理担当者は、食事の様子や給食日誌から残食等の喫食状況を把握し、献立内容や調理方法を検討し工夫している。食材や飲料（茶・ジュース等）は、可能な範囲で無農薬有機栽培のものを選び、食器についても有害物質の溶出が少ない陶磁器を用いるなど、食の安全に取り組んでいる。			

IV-1-1-(1)⑦	⑦栄養士が毎月作成する献立表や給食だよりを配布し、レシピや素材の安全性を保護者に伝えている。行事食の際には、事前にサンプルを提示するようにしている。 ⑧除去食については専門医の指示に応じ、アレルギー室で園児に提供するなど配慮されている。アレルギーについては職員会議で研修を行い、配慮が必要な園児については徹底して情報共有している。
IV-1-1-(2)①	①季節に応じた気候が感じられるよう換気や通風を行い、必要に応じて冷暖房を使用している。寝具は年齢に応じて家庭より持参する場合と園が用意する場合があり、衛生的な管理を心掛けている。園庭遊具については、提携業者に点検を依頼している。
IV-1-1-(2)②	②保育室は年齢に合わせて子どもが安心して生活出来るように工夫されている。クラスの部屋以外にも、催しやリトミックができるホール、図書・音楽が楽しめる少人数で過ごすこともできる部屋（メルヘンルーム）があり活用されている。
IV-1-1-(3)①	①経験の長い職員が多く、常に個々の気持ちに寄り添い受容できる姿勢をもち、穏やかに話しかけておられる姿が見受けられた。
IV-1-1-(3)②	②子どもの排泄に関しては個人差があるため、その都度状況に合わせて丁寧に対応するようにしている。休息時に眠りにくい子どもにはゆったりとした空間を確保し、個々に合わせた休息がとれるよう心掛けている。
IV-1-1-(3)③	③子どもの遊びを通しての成長について、理念や方針に謳われ大切にされている。遊びの中で子ども達が好きだったものを積極的に取り入れるなど、保育士と一緒に遊び子ども達の気持ちを実感しながら広がりを持つように工夫している。登園後は自由に絵画や工作等の制作活動できる環境を整備している。
IV-1-1-(3)④	④園内でのウサギの飼育、クラスや畑での花や野菜づくり等を通して動植物との触れ合いや観察を行っている。また、近隣の店舗からの依頼で園児が絵を描く機会、地域の方からしめ縄づくりを習う機会等、地域社会との交流の機会を大切にしながら季節や和の伝統も伝えるように心掛けている。
IV-1-1-(3)⑤	⑤リトミックなど、音楽に親しみ身体を動かす機会、伸びやかに表現をする機会を楽しめるように取り組んでいる。紙やクレヨンなど、子どもが好きな時に自由に制作ができる環境を整備している。
IV-1-1-(3)⑥	⑥思いを伝えることが難しい年齢の子どもへの代弁をしつつ、相手の思いにも気づいていけるように心掛けながら、子ども達のトラブルに対応している。また、ルールを守る事の大切さを教える目的で当番活動を行い、自ら達成感や責任感が芽生えるように配慮している。
IV-1-1-(3)⑦	⑦朝や夕方の時間に子どもが発言する場を作り、自分の気持ちや考えたことを伝えられる場面をつくるようにしている。他者への人権の配慮、尊重については、子ども達には朝夕のお祈りの時にわかりやすく話し、保護者会や懇談会でも伝えるようにしている。
IV-1-1-(3)⑧	⑧男女差を感じさせるような対応はしていない。男の子でも女の子でも同じように何でも取り組むことができるように配慮している。
IV-1-1-(3)⑨	⑨子どもの数に対して定員以上の保育士が関わりをもてるようにしている。乳児クラスには睡眠時間に安全確認を行う職員を配置して事故防止に取り組んでいる。
IV-1-1-(3)⑩	⑩長時間保育では、夕食の提供が必要な時間までの受け入れはしていないが補食を提供している。長時間保育になる場合は、子どもが不安にならないように縦割りでも集まって遊ぶなど工夫し、一人ひとりの様子に配慮している。
IV-1-1-(3)⑪	⑪全職員が障害児保育に関する研修を内外で受講している。従来の建物は建築後年数が経過しているためバリアフリーの設備は設置していないが、現在、園庭を含む園舎の改築工事が進んでいる。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	B
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	B	B
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	B
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A
[自由記述欄]				
IV-2-(1) ①	①子どもの園での様子は、送迎時や連絡ノートを通して伝えている。クラス懇談会、個別懇談や随時相談を受け付け、子育て支援をしている。			
IV-2-(1) ②	②発達支援についてクラス毎のグループ研修を行い、保護者と情報交換した内容を記録しているが、記録方法については職員やクラスによって多少の差が生じている。			
IV-2-(1) ③	③保護者懇談会を毎年2回実施し、保護者と話し合いの場を設けている。保育参観や運動会、芋掘り等、保護者が参加する活動を通じて、共通理解を得るための機会を設けている。			
IV-2-(1) ④	④児童虐待に関しては、行政や児童相談所等の関係機関と連携して情報交換を行い毎年研修にも参加しているが、虐待に関するマニュアルの作成が確認できなかった。			
IV-2-(1) ⑤	⑤市や児童相談所等の関係機関とは常に連携体制を整備している。虐待が疑われるケースがあれば、直ぐに市の子育て支援課に連絡している。 ⑥子ども一人ひとりの記録を整備し、発育・発達状況や生活状況等が記載されている。京田辺市の関係④児童虐待に関しては、行政や児童相談所等の関係機関と連携し情報交換を行い、毎年研修にも参加しているが、マニュアルが作成が確認できなかった。			
IV-2-(1) ⑥	⑥管理者は福知山市の関係機関の連絡会等に出席して地域団体との連携を図り、運動会に小学生を招待するなど小学校との交流の機会もある。園児一人ひとりの記録については、発育・発達状況や生活状況等を記載して整備されているが、職員間でばらつきが生じない工夫や記録に関する研修については確認できなかった。			

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B
[自由記述欄]				
IV-3-(1) ①	①保健所の指導の基、調理場はじめ水周りは常に清潔に保っているとのことだったが、衛生管理についてのマニュアルの作成は確認できなかった。			
IV-3-(1) ②	②食中毒の発生時に対応できるマニュアルを作成し、リーダークラスの職員は研修受講し職員会議で伝達研修を行い全職員に周知しているが、マニュアルの定期的な見直しが確認できなかった。			
IV-3-(1) ③	③ヒヤリ・ハット事例を記録して毎月の職員会議で検討し、事故防止に向けた取り組みを行っている。また、子ども達への安全教育として警察官による交通安全教室の機会等も設けているが、事故防止チェックリスト等の活用や、事故防止をテーマとした研修の実施が確認できなかった。			
IV-3-(1) ④	④災害発生対応、事故対応のマニュアルを整備し避難訓練も実施されているが、マニュアルの定期的な見直しが確認できなかった。 に実施したり、NTTの伝言ダイヤルを活用した保護者への一斉メール送信訓練の実施等、緊急事態を想③ヒヤリ・ハット事例を記録して毎月の職員会議で検討し、事故防止に向けた取り組みを行っている。また、子ども達への安全教育として警察官による交通安全教室の機会等も設けているが、事故防止チェックリスト等の活用や、事故防止をテーマとした研修の実施が確認できなかった。			
IV-3-(1) ⑤	⑤門の施錠や園内数カ所が映し出される防犯カメラの設置等は、保護者の安心に繋がっている。不審者の侵入時などに対応できるマニュアルを整備し警察官による実習も実施されているが、マニュアルの定期的な見直しが確認できなかった。			